

くるみの黒色斑点(細菌性病害)症状に対する対応について

くるみの生産ほ場において、果実に黒色斑点、葉に褐色斑点症状がみられ、研究機関での診断の結果、平成27年6月にXanthomonas(ザンソモナス)属菌による細菌性病害であることが確認されました。

現在のところ、本病に対して使用できる農薬がないため、以下を参考に病害果の除去を行いましょ。

症状及び被害

- 外果皮に黒色斑点が出ます(図1)。肥大に伴い斑点は拡大し、内部に亀裂が生じます。また殻にまで進展して褐変を生じさせる場合があります(図2)。
- 葉では1~2mm程度の褐色斑点が生じ、斑点周辺に淡黄色部(ハロ)を伴います(図3)。
- 雄花が発病した場合は、黒変します(図4)。



図1 外果皮の病徴



図2 殻にも褐変が生じる場合がある

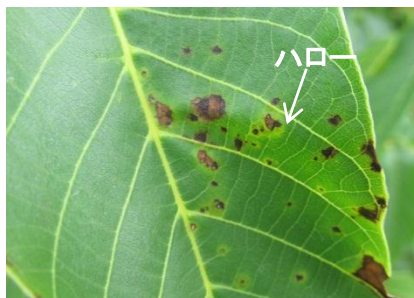


図3 葉の病徴



図4 雄花での発病

発生生態

- 芽や枝などで越冬した菌が一次伝染源となり、新葉や雄花、幼果等に感染します。
- 果実や葉での病徴は5月下旬頃から認められます。
- 発病した果実や葉などは二次伝染源となり、風雨によって病原菌が飛散し感染が拡大すると考えられます。

判別方法

- 類似の症状にクルミ炭疽病、クルミミガの被害があります。
- 細菌性病害による斑点は硬く、わずかに陥没するのに対し、糸状菌である炭疽病(図5)の斑点は軟らかく、深く陥没し、多湿時にピンク色のカビの胞子の塊を生じる点で区別することができます。
- クルミミガの被害は最初、筋状の潜入痕から、後に黒変し、炭疽病を併発する場合があります(図6)。



図5 疑似症状(炭疽病)



図6 疑似症状(クルミミガ)



提供 農環研

防除対策

- 1 現在のところ、細菌性病害を対象とするクルミで使用できる農薬はありません。
- 2 感染拡大を防ぐため、発病果実を採り、落果被害果を拾い集めて、炭疽病、クルミミガの類似症状の被害果を含めて埋没又は焼却処分してください。
- 3 適切な整枝・せん定、除草を行い、風通しを良くしましょう。
- 4 苗木、穂木は感染のおそれのないものを使用し、来歴不明なものは使用しないようにしましょう。

問い合わせ先

農業改良普及センター

長野県病害虫防除所 026-248-6471